

第3回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

◇開催日時 2022年7月30日(土) 10時～12時

◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修

◇参加者数 21名

◇内容 単元構想案の相互検討会

1. 第1分科会(担当:中澤)

(1) 山形県寺津小学校6年生 総合 近野先生

既習内容 4年生:農業部を引き継ぐ。生産物は学校内で販売した。

5年生:生産過程全体を自分たちで行い、生産物は地域内で販売できた。

社会科の食料生産の学習から、寺津地区の農業の課題と日本の農業の課題には共通点があることに気が付いた。

6年生:農業問題、ごみ問題、寺津沼の水質調査や生き物調べなど、児童の関心が広がる。

今年度の学習テーマ 寺津地区の農業における人手不足問題を取り上げ、行動化したい。

相互検討

- ・現状を客観的に把握することで、寺津地区の農業における課題を明確にする必要がある。人手不足以外にも問題があり、それが人手不足問題とつながっている可能性がある。
- ・行動の変革を促すためには、「感動」が重要。今回の学習の場合、①農業体験と②人との出会いが考えられる。①の場合、苦勞させることが必要。兵庫県の猪名川中学校では、代掻きを機械を使わずに「トンボ」を使用してやっていた。泥まみれになり、力仕事でもあり、大変な作業であったが、それによって、「田んぼ」が生徒に内面化された。登下校中に田んぼを見回りに行くようになっている。②の場合、地域で農業に取り組む人たちとの出会いが大切だ。六次産化などして成功している方、兼業で赤字覚悟でされている方、有機農業などで差別化に挑戦しようとしている方など、様々な農家と少人数で出会う機会を作る。そうやって農家の気持ちや事情に寄り添いながら当事者意識をもって、課題解決に挑戦する態度の形成を図ってはどうか。

(2) 福岡県大牟田市立吉野小学校5年生 社会科 島先生

7～8時間を想定

学習の主な流れ 森林資源の働き→国土の保全→自分たちにできることを考える

①ユネスコスクール及び世界遺産のロゴマークに着目させる パルテノン-石の文化

一方、法隆寺は木造建造物 - 木の文化

②森林環境の保全の多角的な取組を調べる

春日山原始林を未来へつなぐ会 天然林の保全活動

吉野地方のかわかみ社中 林業 経済と環境保全をつないだ取組

森と水の源流館 森林環境保全の普及・啓発活動

③森林の働きを学ぶ + 森林環境保全活動に取り組む人の思いにふれる

④全国の森林環境 国土の保全の上でも重要な取組であると認識する

⑤自分にできることを考える

相互検討

- ・学習後に目指す子どもの姿について

「森林環境が受け継がれてきたことをふまえた上で自分は〇〇をしたい。」

- ・ F S C 認証のマークがある木材を使う
 - ・ 紙を使おう。リサイクルペーパーを選ぼう。
 - ・ 無駄にしないで使おう。
- ・ 大牟田市の水害の原因と大牟田の森林の現状を調査して把握した方がいい。
熊本県が作成している小学5年生社会科用副読本「木になる森のはなし」は使いやすい。



(3) 橋本市立あやの台小学校 5年生 中谷先生

【エコマート】

作り手体験をすることで、

- ①ものの大切さに気付く
 - ②ものの裏を見る視点を得る
 - ③仕事の大変さに気付く
 - ④仕事の喜びを知る
- 販売体験と寄付をすることで、
- ⑤お金の意味について考える
 - ⑥仕事の責任を知る
 - ⑦自分たちの可能性を感じる
- 環境について伝えることで
- ⑧生産者が環境を意識する理由を知る
 - ⑨消費者の協力の重要性を知る
- 会社運営をすることで
- ⑩協力の仕方と大切さを知る

エコマートとは

あやの台小学校の5年生が、総合的な学習の時間に、野菜会社や手芸会社などをつくって販売・寄付までの活動を行う大単元を取り入れており、地域ボランティア10名以上のサポートをいただいている。子どもたちが会社を作り、自らの責任と目的のもとで環境に配慮した商品製作から販売までを行うことで「相手意識」を育てたい。

エコマートの学習についてのアイデア書き出し

- ・売り上げをもってスタディツアーに参加し、子どもたちに現地レポート
- ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの発表会に参加
- ・環境に配慮したものづくりを行っている企業のお話を聞く
- ・販売を伴わず、寄付を集める活動を行う
- ・フェアトレードの委託販売を行う
- ・フェアトレードのラベルを自主作成し、販売を行う
- ・for the blueの活動や、コウノトリの住める米作りなど、兵庫県豊岡市の取組を参考にして、町をあげて環境を守っている取組について学ぶ

【アースレンジャー源流人プロジェクト】

環境レポートをつくることで

- ① 地球環境の現状と問題点について知る
- ② 自分の生活と環境問題のつながりを知る
- ③ 環境を守ることに使命感をもつ
川上村や加太と交流
することで、
- ④具体的に人のためになっている実感を得る
- ⑤自分たち「も」責任があると感じる
- ⑥環境を守る人に尊敬の念を抱く
ゴミ拾いに取り組むことで
- ⑦「きれいにする≒よごさない」を感得する
- ⑧環境を守ることにに対してハードルが下がる
源流人プロジェクトに取り組むことで
- ⑨人の理解を得ることの難しさを知る
- ⑩人がつながることの喜びを知る。

【アースレンジャーとは】

全国組織であるこどもエコクラブの中で、「あやの台小学校エコマート」として登録して今年で3年目である。あやの台小学校では環境レポートを製作し、環境について理解を深めた人がアースレンジャーバッジをもらえるように位置付けている。

子どもたちが環境について学んだことを積極的に行動や発信することで、自己有用感を感じながら、価値観の中に「地球環境を想って動くこと」が当たり前になるようにしたい。また、今年は源流人プロジェクトを立ち上げて、紀の川流域の学校とつながり、同世代の仲間とともに環境を守ることを目指す。

今年度のチャレンジ「ゴミアート」に挑戦

ゴミアートに取り組む際の留意事項

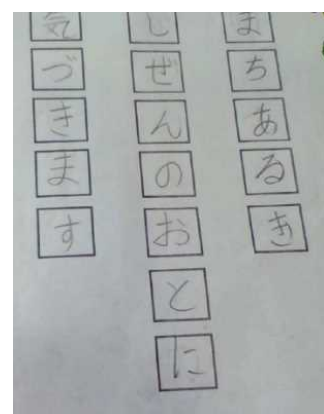
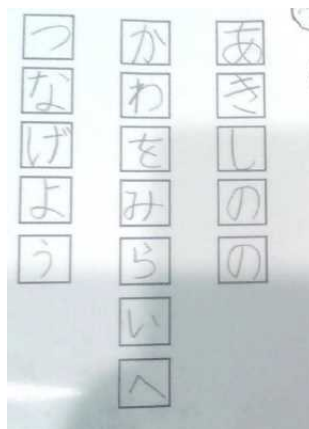
- ・展示後にどうするかを考えておく
- ・分解可能な作品の方がよい（処分するにしても）
- ・再生可能な資源で作成する。あるいは、分別した資源で作成する。

1. 第2分科会（担当：大西・河野）

(1) 奈良市立平城小学校 4年生総合 村上先生

川柳を用いて自分の思いを深め、友達と思いを共有しできる限り多くの人に学んだこと・考えたこと・感じたことを伝える。

1学期…秋篠川の探索から川柳をつくる



2学期…川上村の川と比べて、川を大切にされてきたことを考える

川を守るためにできることをは？

源流館のように秋篠川の恵みを考え発信する

3学期・・・3年生と一緒に「秋篠川かるた大会」「秋篠川まつり」をする

これまでの学び、これからの学びを川柳に

相互検討

- ・これまでの平城小学校の秋篠川に関する取組を違った角度から取り組もうとしているところに価値。
- ・川柳のまとめていく活動を繰り返すことで、言葉も洗練されていくのでは。
- ・3年生といっしょにカルタ大会をするのは、きっと次年度の学習につながるだろう。
- ・できれば地域の大人も巻き込んだ「秋篠川まつり」ができればいい。

(2) 田原本町立田原本小学校 4年生総合 中本先生

「めぐる、めぐみ。」わたしたちの田原本町宣言

(1学期) 森と水の源流館にあった3枚のポスター「めぐる、めぐみ。」とは、どういう意味だろう。

実際に森と水の源流館へ見学に行こう！

(2学期) 田原本町を流れる寺川と川上村を流れる音無川にはどんなちがいがあろうか。

指標生物で比べる

「なぜ、同じ源流地からくる2つの川の様子がこんなにちがうのだろうか。」

「昔(30年前・60年前)から2つの川にちがいがあったのだろうか。」

2学期にもう一度、森と水の源流館に行きたいが、1学期と味場所だけに保護者の理解が得られるか

相互検討

- ・「めぐみ」という言葉に、川の多面的機能が表現されている。それが「めぐる」ということはどういうことなのか、いろんなアプローチができるのではないか。
- ・2学期以降の学習の流れから考えても、もう一度森と水の源流館には行くのが必要だろう。そこは、学習の意義をしっかりと保護者に伝えれば、納得してもらえるのでは。
- ・「自分たちにできること」を考えると、表面的にならないためにも、それまでにどこまで自分ごとになっているかが大事。
- ・地域の大人を巻き込むことができればいいのだが。
- ・学校間交流するのもよい。

(3) 奈良市立平城小学校 6年 奥戸先生

「魅力が伝わるリーフレット」

- ・和歌山への修学旅行を通して、和歌山県の魅力を伝えるリーフレットを作成する。
- ・和歌山県のたくさんの魅力に気付いて、平城のまちに立ち戻り、自分の住む町の魅力を考えなおす。
- ・まだ気づいていない魅力を、観光のプロ、奈良交通に来てもらい、話を聞いたりして深めていく。
- ・平城のまちの魅力を伝えるリーフレットをつくり、発信する。

相互検討

- ・和歌山のまちはたしかに観光地として様々な見どころがある。平城のまちにもあると思うが、観光のまちとしての良さ、観光資源に着目することが平城のまちの良さを知ることにつながるだろうか。

もっと違う視点で良さを見つけることもできるのではないか。

- その場合、奈良交通さんに来てもらうのは一つの手だけれど、特に街中をはしるバスの運転手さんや、タクシーの運転手さんのように、まちの中をしている人に聞けば、違う視点からの魅力がもっと見えてくるかもしれない。
- リーフレットづくりをするのは、学んだ成果を出すという意味でいいと思う。相手意識をどこに置くか、誰に向けてのリーフレットなのか、なぜつくるのかが子どもたちに明確になるといいなと思った。